

現代版 白山詣双六



江戸時代に作られた
白山詣双六の面白さを
今に伝える、
現代版白山詣双六。

石川県立歴史博物館
の「大鑑コレクション」

の中に、江戸末期頃に刷

られた絵双六「新板手擲清水

参並白山詣双六」があります。振りだし

は東山の西養寺で、上がりは白山比咩神社。マス目には全24ヶ所の景観が白山参詣道として描かれており、往時の街道筋の庶民生活に想いを馳せることができます。双六に登場するのは白山信仰にとどまらず、歓喜天、天神様、牛頭天王を祀る神社仏閣や太陽信仰の神社もみられます。賽銭ポイントなども設定され、ゲーム性にも配慮されたことも推察されます。

江戸時代末期から約200年の時が経ち、白山参詣をめぐる風景は様変わりしました。そして今、「新板手擲清水参並白山詣双六」を手本にして、その面白さを継承した「現代版白山詣双六」を編集しました。当時の双六と比べながら、白山参詣を是非楽しんでください。



「新板手擲清水参並白山詣双六」解説

- 1 卯辰西養寺
- 2 乗龍寺
- 3 浅野川大橋
- 4 堤町鏡屋 (堤町かみ屋)
- 5 犀川大橋
- 6 玉泉寺天満宮
- 7 上泉村 (地蔵原村)
- 8 泉野一本松
- 9 寺地の天王
- 10 山科
- 11 窪の橋
- 12 たこやま (南尾山)
- 13 額谷茶屋
- 14 四十万
- 15 曾谷
- 16 坂尻
- 17 小柳茶屋
- 18 日御子の森
- 19 手叩き清水
- 20 月橋
- 21 鶴来
- 22 金鶴宮
- 23 神主町
- 24 白山

江戸時代、金沢より遠か離れた奥宮の白山へ登るのは難行であった。中宮の役目をした松新宮や中宮笠へ参るのもむづかしく、早朝に出立すれば徒歩で往復できる下宮の白山詣を選ぶ人が多かった。金沢より日帰りは可能と言ってもかなりの肉体的苦労をともなうもので、藩士や庶民は、一月、五月、九月を参り月としていたようである。ところで、この双六の題名は「白山詣」となっていない。題名は「手叩き清水」をトップにすえて主に、「白山詣」に従っている所に、双六に内蔵されている意図と、刷り年を暗示させる鍵が隠されているように思える。清水は、泰澄が掘ったとも、白山火の御子峰と地下でつながっているとも伝え、清水脇には観音が祀られ丙午年に開帳があり、開帳年には茶屋が立ち並ぶ程であつたらしい。江戸末期の丙午年は、天明六年(一七八六)、弘化三年(一八四六)である。この双六の題名のトップに手叩き清水をもってきたのは、丙午年の参詣をあてこんだ広告としての機能をもたせたものと推察する。

(参考文献 歴史の道調査報告書／編者:石川県教育委員会)

現代版 白山詣双六

「ふりだし」は東山の西養寺、「上り」は白山比咩神社。
24ヶ所の景観が描写された江戸末期の絵双六をモチーフにした
現代版の白山参詣ウォーク。



「加賀藩と雪峰白山」観光連携事業

(一社) 白山市観光連盟 TEL 076-259-5893 / 白山市観光課 TEL 076-274-9544

(一社) 金沢市観光協会 TEL 076-232-5555 / 金沢市観光政策課 TEL 076-220-2194

【2019年3月発行】

